

プロフィール



ほしの とみひろ
星野 富弘

- 1946年 群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。
- 1970年 群馬大学教育学部保健体育科卒業。
中学校教諭になるが、クラブ活動の指導中頸髄を損傷、手足の自由を失う。
- 1972年 病院に入院中、口に筆をくわえて文や絵を書き始める。
- 1979年 前橋で最初の作品展を開く。退院。
- 1981年 結婚。雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイの連載を始める。
この頃から全国各地で「花の詩画展」を開催。
- 1991年 東村に村立富弘美術館開館（現みどり市立「富弘美術館」）。
- 1994年 休止していた「花の詩画展」を、熊本県立美術館での開催を境に再開。負傷後初めて飛行機に乗って熊本を訪問。
以後ニューヨーク、ホノルル、ロサンゼルス、ワルシャワなど海外でも開催。
- 2006年 芦北町立星野富弘美術館開館。
群馬県名誉県民の称号を贈られる。
- 2011年 群馬大学特別栄誉賞（第一回）受賞。
- 2021年 富弘美術館開館30周年。
芦北町立星野富弘美術館開館15周年。

詩画やエッセイは教科書にも掲載され、詩は作曲され多くの人に歌われている。現在も詩画やエッセイの創作を続けながら、全国で「花の詩画展」を開いている。

<主な著書>

「愛、深き淵より。」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」「速さのちがう時計」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「山の向こうの美術館」「種蒔きもせず」「いのちより大切なもの」「詩画とともに生きる」「あの時から空が変わった」「足で歩いた頃のこと」等

芦北町立星野富弘美術館

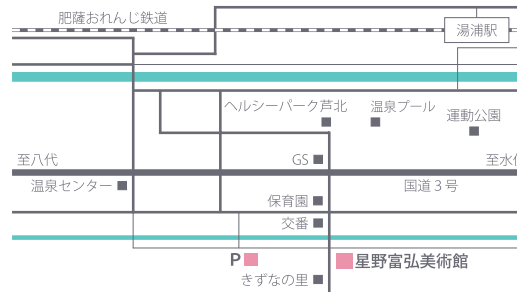
休止されていた「星野富弘花の詩画展」が、1994年の熊本県立美術館での開催を境に再開されます。それが契機となり、その1年後に「星野富弘詩画がある芦北ふるさとギャラリー」が芦北町に開設。以後、交流が続くなかで富弘美術館（群馬県みどり市）の唯一の姉妹館として、2006年に「芦北町立星野富弘美術館」が誕生しました。当美術館は、星野富弘の詩画作品を常設展示しています。皆様には、星野の描く「いのちの尊さ・いのちの輝き」を感じていただければ幸いです。

開館時間・観覧料

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 第2・4月曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月29日～1月3日）
その他燻蒸作業に伴う臨時休館有り
- 観覧料 一般 500円（400円）
小中学生 300円（260円）
幼児 無料
※（ ）内は20名以上の団体
※障がい者手帳等お持ちの方は半額
※学校の団体利用による割引有り

交通アクセス

- 高速道路 南九州西回り自動車道
・「芦北IC」下車⇒星野富弘美術館 [15分]
・「津奈木IC」下車⇒星野富弘美術館 [15分]
- 電車 肥薩おれんじ鉄道
・「湯浦駅」下車⇒星野富弘美術館 [徒歩15分]
・「佐敷駅」下車⇒星野富弘美術館 [車10分]
- 新幹線 JR九州新幹線
・「新水俣駅」下車⇒星野富弘美術館 [車20分]
・「新八代駅」下車⇒星野富弘美術館 [車45分]
※肥薩おれんじ鉄道「新水俣駅」→湯浦駅 [15分]
※肥薩おれんじ鉄道「新八代駅」→湯浦駅 [55分]



※バス等の駐車については、当館までお問い合わせください。

芦北町立星野富弘美術館

〒869-5563 熊本県葦北郡芦北町湯浦 1439-2
TEL: 0966-86-1600 FAX: 0966-86-1600
http://www.hoshino-museum.com
(姉妹館) 富弘美術館・群馬県みどり市東町草木 96 TEL: 0277-95-6333 FAX: 0277-95-6100



芦北町立 星野富弘美術館



何のために
生きていこうだろう
何を喜びとしらう
よいのだろう
こねからどうなるだろう
その時私の横に
みなたが一枝の花を
置いてくれた
力をぬいて
重みそのままに咲いている
美しい花だった

展覧会スケジュール

2022 - 2023

季節の常設展／特別展

季節の常設展では、四季をテーマとする作品の数々をご覧くださいませ。また、特別展では、星野富弘の様々な詩画の世界をご堪能いただけます。

▶ 7.10[日]

季節の常設展「春・夏」

富弘作品には、四季折々に咲く花や草木が描かれています。本展では、「たんぼぼ」や「結婚指輪(ガクアジサイ)」など、春・夏の草花を題材にした作品を紹介します。

7.12[火] ▶ 9.25[日]

特別展「記憶の旅」



「盛夏」1987年

どこか懐かしい景色と優しい色合い。日常の小さな出来事や気づきを綴る富弘作品は、私たちの記憶の中にある情景を思い起こさせ、感情を揺さぶります。本展では、「盛夏」や「カントリーロード」など、どこか懐かしくあたたかい作品の数々をご覧ください。

季節の常設展「夏」

「あさがお」や「当てはずれ(ツルバラ)」など、夏を彩る草花を題材とした作品を紹介します。

9.27[火] ▶ 12.11[日]

特別展「本日は晴天なり」

不慮の事故により始まった入院生活。声を出すこともできない状態が続く中で、約一ヶ月ぶりに発した最初の言葉は「本日は晴天なり」でした。本展では、空模様をテーマとした作品を展示します。



「雨上がりの道」2013年

季節の常設展「秋」

秋の草花を題材とした作品を紹介します。

12.13[火] ▶ 2023.3.12[日]

特別展「わたしが選んだ富弘さん展 Vol. 2」

「わたしが選んだ富弘さん展」の第2弾。美術館の来館者アンケートで選ばれた人気作品の数々を展示します。



「秋の野の花」1984年

季節の常設展「冬」

「椿の木」や「雪割草」、「難転」など、冬の草花を題材とした作品を紹介します。

2023.3.14[火] ▶ 6.11[日]

季節の常設展「春・初夏」

本展では、春・初夏の草花を題材とした作品を紹介します。

2023.3.14[火] ▶ 4.23[日]

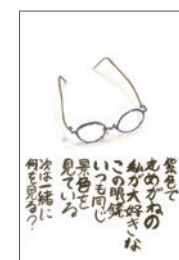
第16回星野富弘美術館詩画公募展入賞作品展

第16回詩画公募展において選出された全ての優秀作品を展示します。全国各地から届く、一人ひとりの体験や感性が表現された詩画作品をご覧ください。

第15回最優秀賞作品



「アリ」
吉永 朝陽
芦北町立佐敷小学校2年
小学生の部



「私のめがね」
長谷川 さくら
熊本市立武蔵中学校1年
中学生の部



「ありがとう」
八代市
渡辺 久己
一般の部

詩画作品募集!

第16回星野富弘美術館詩画公募展

絵と言葉をひとつの画面に収めた詩画を、広く一般に普及させるとともに、地域の芸術文化の発展向上に寄与することを目的に、詩画公募展を実施します。一人ひとりの体験や感性から生まれるオリジナルな詩画の優秀作品を顕彰します。

応募期間: 12.1[木] ▶ 2023.1.31[火]

応募規定: 出品者本人の体験や感性から生まれるオリジナルな詩画作品であること。

※その他詳細は、募集要項をご確認ください。

※募集要項は、チラシや美術館HP等に後日掲載します。